

参考／本誌編集部への質問

本誌編集部は3月18日付でNHK広報宛に、「ウクライナ侵攻報道におけるSNSも含むネット上のフェイク対応について」をテーマに取材依頼をメールで送付した。以下が、質問内容である。

- ① フェイク情報が飛び交う現状について、「ネット情報」の分類、仕分けをしているのか。
従来の発信する組織の別だけではなく、SNSの情報対応について。
- ② 多様な情報を反映した番組制作について、各番組で情報の真偽を判断するのか。それともNHK全体として専門の担当が対応しているのか。
ファクトチェック測定の基準化について。IFCN（国際ファクトチェックネットワーク）の原則や国内組織との関係について。

- ③ Twitter、Facebook、Instagram、TikTok、TelegramなどのSNSで扱われる動画のフェイク判断を行う体制と、瞬時に拡散する問題をどう対応できていると考えているのか。
- ④ 技術面の分析としてAIなどの活用があるが、NHKはAIの活用を考えているのか。あるいは、ほかに活用を考えるものがあるのか。
また、技研の専門性を分析に生かすことを考えているのか。
- ⑤ 調査報道としてオシント手法などによる独自のアプローチを進める常設した組織があるのか。
- ⑥ BBCなどが進める誤情報や偽情報のまん延に対処する技術規格開発の標準化団体Coalition for Content Provenance and Authenticity (C2PA)への参加はあるのか。

※これらの回答を4月7日までに文書回答か、対面もしくはオンラインの取材を依頼。

■ 3月8日、藤井克徳氏（日本障害者協議会 代表）から朝早くにメールが届いた。

「戦火に襲われるウクライナの人々へ詩を創りました。何とかウクライナの障害当事者に届けと願っています」

連帯と祈り

ウクライナの障害のある^{はらから}同胞へ

戦争は、障害者を邪魔ものにする
戦争は、障害者を置き去りにする
戦争は、優生思想をかきたてる
大量の障害者をつくり出す最大の悪、それが戦争

朝一番のニュースを恐る恐る
キエフの包囲網がまた狭まった
教会も文化財も悲鳴を上げて崩れ落ちる
禁じ手が^{はら}反古にされ原子力発電所から火の手

殺し合いでなく話し合いを
侵攻でなく停戦を
停戦でなく平和を
青い空と黄色の豊作に似合うのは平和

私たちは祈ります
西北西の方角をじっとみつめながら
心の中から希望が切り離されないように
とにかく生き延びてほしい

戦争は、障害をたちどころに重くする
戦争は、障害者の尊厳を軽々と奪い去る
戦争は、障害者の明日を真っ黒に塗りたくる
早いうちに、否、この瞬間に終わらせなければ

もう一度くり返す
とにかく生き延びてほしい
たとえ、食べ物を盗んでも
たとえ、敵兵に救いを乞うても

遠い遠い、でも魂はすぐ傍の^{そば}日本より

ふじいかつり（NPO 法人日本障害者協議会）

※この詩は英語、ウクライナ語、ロシア語に訳されている。